

# 中国短信

## 経済動向

生産、投資は高水準で横ばい推移 ..... 1

工業生産、固定資産投資とも横ばい推移  
輸出拡大、直接投資減少のピークは過ぎた模様

## 特集

2005年のヒット商品番付・流行語大賞 ..... 3

2005年の10大ブランド：蒙牛、聯想、華為、湖南衛星TV、百度など  
2005年の流行語：自主创新、共産党先進性教育、超級女声、神舟六号など  
参考：日本で知られている中国10大ブランド

## 最近の話題

2006年は投資減速か、反動増か ..... 10

高成長のなかでのバランス改善の兆し：産業間、エネルギー、投資と消費  
なお残る問題点：エネルギー効率の低下、社会的なソフト・インフラの不足  
2006年の展望：5ヵ年計画スタートの年、20%増の安定成長では

## 東北振興

遼寧省 = 鉄鋼強省に向けた歩み ..... 12

2005年の回顧：大型投資プロジェクト、鞍山・本溪鋼鉄の合併  
発展への懸念材料：生産能力過剰問題、資源制約  
今後の方向性：内陸型から沿海方の立地へ、設備の新旧交代、高付加価値化

2006年1月

株式会社 旭リサーチセンター  
遼寧中旭智業有限公司



## 1. 経済動向：生産、投資は高水準で横ばい推移

### 工業生産、固定資産投資とも横ばい推移

1月25日に国家統計局から2005年の実質GDP成長率が9.9%と発表された。四半期別には1～3月9.9%、4～6月期10.1%、7～9月期9.8%、10～12月期9.9%で、安定的な高成長と評価されている。ここでは、11月までの統計をもとに報告する。

主要経済指標の推移 (単位：前年比、%)

	全国		遼寧省	
	2005.1～11	2005.1～10	2005.1～11	2005.1～10
工業生産	16.4	16.3	20.1	20.2
固定資産投資	27.8	27.6	43.3	45.5
輸出入総額	23.5	24.0	22.0	25.4
輸出総額	29.7	31.1	28.8	32.8
輸入総額	17.1	16.7	14.2	16.8
海外直接投資	1.9	2.1	122.6	84.4
都市住民所得	11.5	11.5	13.8	13.7
小売売上高	12.9	13.0	13.5	13.3
消費者物価	1.8	1.9	1.4	1.5

1～11月の工業生産は前年比16.4%増で、ここ9ヵ月間は16.2～16.4%の範囲内での伸びが続いている。主な業種別にみると、化学原料・化学製品が20.0%増、鉄鋼精錬圧延加工が17.3%、非鉄金属製品が19.7%増と重化学工業分野は堅調に推移している。一般設備が21.0%増、電気機械・器材が18.7%増、通信設備・コンピュータ・電子設備が22.3%増と高い伸びを示す一方、交通運輸設備は14.6%増、電力・熱力は10.3%増と需給が逼迫する分野の生産は、全体平均を下回る伸びにとどまっている。また、貿易摩擦の影響もあり、紡織も14.3%増と全体平均を下回っている。

1～11月の固定資産投資は前年比27.8%増で、ここ3ヵ月は27.6～27.8%の範囲内での伸びが続いている。うち、国有企業は12.5%増、不動産投資は22.2%増で全体平均以下の伸びに抑えられている。中央政府認可、地方政府認可の別では中央認可プロジェクトが14.3%増と抑制されている一方、地方は29.6%増と依

然、高い水準で推移している。産業別には農業など第一次産業が 24.1%増で加速傾向、製造業など第二次産業も 36.4%増で伸びを高める一方、サービス業など第三次産業は 36.6%増で伸びは横ばい傾向である。

#### 輸出拡大、直接投資減少のピークは過ぎた模様

輸出入は 1～11月の総額で 1兆 2,822.7億ドル、前年比 23.5%増となっている。輸出は 29.7%増の 6,865.4億ドルで伸びは鈍化傾向、輸入は 17.2%増の 5,957.3億ドルで伸びを高めている。貿易黒字は前年比 332.7%増の 908.5億ドルに膨らんでいる。一方、海外からの直接投資実行額は 1.9%となり、マイナスが続いている。もっとも単月別の推移をみると、4～6月に 2ケタ台の大幅マイナスに落ち込んだものの、その後マイナス幅は縮小している。

1～11月の小売売上高は前年比 12.9%増となり、二桁の伸びが続いている。都市・農村別には、都市部が 13.2%増、農村部が 10.9%増で、いずれも大きな変化はない。主な商品別では、現在の消費ブームの主役である自動車が 28.8%増、通信機器が 32.0%増と高い伸びを示しており、ファッション衣料は 19.3%増、スポーツ娯楽用品は 18.9%増、化粧品は 19.4%増と消費の高度化もうかがわれる。一方、家電・音響機器は 9.7%増、家具類は 4.2%増と伸び悩んだ。また、原油高騰もあり石油製品類が 35.2%増（燃料小売価格は 1～11月で 15.5%上昇）となっている。

消費者物価上昇率は 1～11月で前年比 1.8%となったが、11月単月は 1.3%と 9月（0.9%）までの低下傾向に歯止めがかかった格好になっている。都市・農村別には都市部 1.3%、農村部 1.4%となっている。サービスの価格は 2.7%と比較的高いが、消費財は 0.9%で、特に衣服類（1.0%）食糧価格（0.1%）、油脂価格（7.6%）、家禽肉製品（6.3%）、生鮮卵（2.9%）の下落が目立っている（水産物は 4.7%、野菜は 22.0%と上昇している）。

## 2 . 特集：2005 年のヒット商品番付・流行語大賞

2005 年の 10 大ブランド：蒙牛、聯想、華為、湖南衛星 T V、百度など

2005 年、中国ではさまざまなヒット商品、ブランド、企業が話題を呼んだ。今後、ロングセラーが見込めるものから、一時の流行として輝き、流れ星のように消えていくものもある。

以下では、中国経済景気監測センター、「中国国情国力」誌、「中国情報」が選んだ 2005 年の中国 10 大ブランドを紹介する。

### 蒙牛：最も人の目を引きつけたブランド（最吸引眼球的品牌）

蒙牛は 2005 年に急成長した牛乳のブランドである。年初に設立した「老牛特別基金」は、経営者・牛根生氏の経営哲学である「財聚人散、財散人聚」（財産を貯めこむと人は去り、財産を配れば人は集まる）を実践したもので、多方面で話題を呼んだ。さらに、湖南衛星 T V の人気音楽番組「超級女声」のスポンサーとして、「超級女声」が全国的ブームとなるのにつれて、蒙牛ブランドは甘くて美味しく、活動的とのイメージを人々の脳裏に焼き付けることとなった。

一時は邪道とみられた経営スタイルも、今や「超女経済学」ブームが起こるほどになっている。蒙牛の「牛」は中国語の会話で「すごい、素晴らしい」という形容詞にも使われるが、まさに、それに相応しい業績をおさめることとなった。



蒙牛牛乳



聯想のパソコン

### 聯想：最も関心を集めたブランド（最令人關注的品牌）

聯想は 2005 年に I B M のパソコン部門を買収、世界第三位のパソコンメーカーに躍り出た。「蛇が象を呑む」と形容され、買収成果には疑問も呈されていたが、

2005年度第一四半期の業績は売上高が前年比234%増、利益は6%増と、何とか前年比プラスを確保した。グローバル企業への脱皮を目指す中国企業にとって聯想は一つのモデルを提供したようだ。

#### **華為：最も技術力を発揮したブランド（最有技術含量的品牌）**

2005年、華為は「目標は全世界」として海外売上高40億ドルを目標に掲げた。ブリティッシュ・テレコム（BT）の21世紀ネットワーク計画の優先サプライヤー8社として、富士通や米・シスコシステムズなどと並んで唯一の中国企業として選ばれた。しかも、シスコと並んで2つの戦略ドメインで選ばれたことに、業界内外での関心を集めている。



華為のネットワーク製品

#### **中国建設銀行：悲喜こもごものブランド（最憂喜参半的品牌）**

10月、中国建設銀行は香港市場への上場を果たした。上場に至る道のりでは、前董事長の腐敗疑惑による取調べや詐欺事件などの醜聞も相次いだ。最終的には難局を乗り越えて上場に至った。

#### **ハイアール（海爾）：最も尊敬されるブランド（最令人崇敬的品牌）**

中国に世界で通用する独自ブランドが必要かどうか、の議論も盛んだが、ハイアールをみると、その結論は明らかだ。ノーベル経済学賞のロバート・マンデル教授が主宰する世界ブランド研究所が4月にまとめた「世界で最も影響力のあるブランド500」で、ハイアールは89位にランキングされた。英フィナンシャルタイムズ紙の「中国の10大グローバルブランド」でもトップとなり、国家品質検査部門も中国のグローバルブランドに選定している。

### 湖南衛星TV：最も興奮を呼び起こしたブランド（最令人激动的品牌）

2005年のメディア界は湖南衛星テレビの年だった、と言っても過言ではない。人気アイドル・オーディション音楽番組「超級女声」(スーパー歌姫)と、芸能人がいろんなゲームに挑戦する娯楽番組「快樂大本营」がブレイク、人気も業績も一人占めした。ユニークでバラエティに富んだ番組作りで、チャンネルをあわせれば画面に釘付け、との評もある。



湖南衛星TV「超級女声」



百度の検索サイト

### 百度：最もヒットされたブランド（最讓人追隨的品牌）

百度は、かつてグーグル (Google) の中国コピー版としかみられていなかったが、独創性を高め、今や世界最大の中国語検索エンジンとなっている。8月には米ナスダックに上場、CEO李彦宏は9億ドル超を手にし、「百度人民銀行」とのうがった声もある。インターネットやベンチャー業界では百度神話が再燃、羨望の的になっている。

### 中国海洋石油：最も考えさせられたブランド（最發人深思的品牌）

中国海洋石油が米シェブロンと繰り広げたユノカル争奪戦は結局、シェブロンに軍配が上がり、関係者を落胆させた。中国海洋石油の敗北は、海外からいかにエネルギーを確保するか、ビジネスからいかに政治的な要因を回避するか、どうすれば中国企業が世界に受け入れられるか、深く考えさせられるものだった。

### ハーゲンダッツ (哈根達斯)

#### ：最もガッカリさせられたブランド（最讓人傷心的品牌）

「彼女を愛しているなら、ハーゲンダッツを」に心動かされ、たとえ半月分の

生活費をはたいてでも惜しくない、中国の新中間層（小資：プチブル）はそう思ったものだった。しかし、中国で「アイスクリームのロールスロイス」とも崇められた名声は、深圳の品質技術監督部門から衛生許可のない工場での生産を摘発され、地に堕ちてしまった。

度重なる外資の食品品質問題に、ネット上では「香りの濃いコーヒーは好きだが、ヨード過多のネスルはご免だ」といったような書き込みもあるようだ。



ハーゲンダッツ



健力宝

#### 健力宝：最も気苦労の多かったブランド（最不省心的品牌）

広東省の大手飲料メーカ・健力宝にとって2005年は「一難去って、また一難」の年だった。前董事長・張海氏が詐欺・横領の疑いで逮捕に、匯中天恒公司の参画後の資産を巡るドタバタが続き、その後も内部統制、政府の過度の干渉などなど、騒動が相次いだ。

2005年の流行語：自主创新、共産党先進性教育、超級女声、神舟六号など

上海文匯報業集団が1月4日に発表した「2005年の流行語」に、「自主创新」が選ばれた。「自主创新」は革新、イノベーションとでも訳そうか。

WTO加盟後、中国の対外貿易は急拡大の一途をたどっているが、低廉な労働力にたよった加工貿易（原材料・部品を輸入して、中国で加工・組立して輸出する）形態が主流になっている。先進国の技術力、研究開発力の前に、中国は低付加価値の工程を担わざるを得ない状況から、いかに脱却するか。このような時代背景や問題意識が、「自主创新」を流行語のトップに押し上げた要因だ。

「2005年の流行語」は中国の代表的な新聞・雑誌、新聞のウェブサイトで登場した単語を集計・分析したもので、自主创新のほか、共産党員先進性教育、股権



分置、超級女声、神舟六号、第 11 次 5 カ年計画、スーダンレッド、節約型社会、李宇春、彭師が 10 大流行語に選出されている。

自主創新：自主ブランドや独自技術の開発、革新、イノベーション。

共産党先進性教育：共産党員は先進性を維持して、鄧小平理論と「三つの代表」を学習、実践し、素質の向上と組織の強化を図ること。

股権分置：国有企業株が非流通株（国家保有）と流通株（上場株）に分かれ、国家保有株を新たに放出すると需給が悪化し株価が下がる問題。9月に上場企業の股権分置改革に関する管理規則（股改方案）が公布され、株式放出制限や流通株への配慮など改革案が承認された銘柄はG株（G股）と称される。

超級女声：湖南衛星テレビの人気音楽番組。

神舟六号：10月に打ち上げられた2度目の有人宇宙船。費俊龍、聶海勝の二人の飛行士は5日間の飛行を終えて帰還、二人は航天英雄と評価された。

第 11 次 5 カ年計画：2006～10年の発展計画で、先富論から共同富裕へ、経済発展方式の転換などが謳われている。

スーダンレッド：ケンタッキー・フライドチキンの製品などから検出された発がん性物質。外資製品の品質安全問題の一つ。

節約型社会：省資源、省エネルギー社会の建設。

李宇春：超級女声の2005年の優勝者。この春節にデビュー。

彭師：テニス・プレイヤー。



各分野別に発表された流行語は、以下の通り。

政治関係：自主創新、共産党員先進性教育、第 11 次 5 カ年計画（十一五）、節約型社会、反国家分裂法、第 16 期中央委員会第 5 回全体会議（五中全会）、祁愛群、張雲泉（ともに優秀な共産党員）、社会主義新農村、環境アセスメント

国際関係：反ファシスト戦争勝利 60 周年、G 4（国連改革の日・独・印・ブラジル）、愛知万博、中国館、常任理事国入り、ハリケーン「カトリーナ」、ロンドン・テロ、オレンジ革命（ウクライナ）、欧州憲法、調和の取れた世界（和諧世界：故錦濤の国連での演説）

経済関係：股権分置、股改方案、G 股、再生可能エネルギー、ユノカル、宝山鋼

鉄の新株引受権、民営航空、油荒（石油不足）、通貨バスケット、官煤（官僚の違法な炭鉱会社への出資）

不動産関係：組合拳（低収入層向けの住宅制度）、不動産価格の安定、不動産市場の調整、不動産価格の吊り上げ、特価住宅、個人集資建房（資金を集めて住宅建設）、普通住宅標準、国八条（国務院が発表した住宅価格安定策）、房貸新政（住宅ローンの新政策）、不動産価格・コスト

自動車関係：小排気量自動車、ハイブリッドカー、プリウス、新エネルギー自動車、エコノミーカー、小型自動車制限、自動車自主ブランド、OBD（車載式故障診断システム）、黄金排量（1.6リットル車）、自動車生産能力過剰

スポーツ関係：彭師（テニス）、丁俊暉（ビリヤードの世界チャンピオン）、謝亜龍（サッカー）、福娃（北京オリンピックのマスコット、写真）、遲尚斌（サッカー監督）、胡凱（陸上短距離）、「一つの世界、一つの夢」（北京オリンピックのテーマ）、球霸（サッカーの不正行為）、ロンドン・オリンピック、孫英傑事件（マラソン、ドーピング事件）。



健康関係：スーダンレッド、鳥インフルエンザ（ウイルス、人への感染）、タミフル、マラカイトグリーン（孔雀石緑：有毒化学物質を含む染料、殺菌剤）、号販子（有名専門医の診察予約番号の販売行為）、診療費用の高騰、法外な診療費用請求、松花江水質汚染（11月に発生した吉林省の化学工場爆発事件による）、安徽省のA型肝炎ワクチン事件（学生全員に不良反応）

エンターテインメント関係：超級女声、李宇春、中国映画生誕100年、無極（最近上映された人気映画）、傅彪（昨年亡くなった人気俳優）、大長今（大人気の韓国ドラマ）、郎朗（有名ピアニスト）、孔雀（ベルリン映画祭受賞作）、黄聖依（香港映画女優）、千手観音（2005年春節で最も人気のあった舞踏番組）

参考：日本で知られている中国 10 大ブランド（「北京晩報」10 月 21 日）



中南海（煙草）



聯想（パソコン）



青島ビール



ハイアール（電器）



T C L（電器）



中華（煙草）



同仁堂（漢方薬）



茅台酒



海信（電器）



五糧液（酒）

### 3. 最近の話題：2006年は投資減速か、反動増か

2005年の固定資産投資は引き続き高い伸びを示したが、過熱状態からは落ち着きを取り戻してきており、投資・消費のアンバランスにも改善の兆しがみえ始めた。ただし、政府が生産拡大型の固定資産投資の主たる担い手でありながら、一方でマクロ調整、投資抑制の経済運営を行うという矛盾は根強く残っている。

高成長のなかでのバランス改善の兆し：産業間、エネルギー、投資と消費

第一に、1～9月期の固定資産投資は前年比26.1%増と引き続き高水準となったが、固定資産投資プロジェクトを選別することで、伸びは減速傾向にあり、落ち着きを取り戻しつつある。

第二に、工業部門の投資が鈍化する一方、農業分野の投資が拡大し、第三次産業も堅調と、産業間のバランスが取れてきた。石炭、電力、石油、運輸など需給逼迫分野の投資が拡大する一方、エネルギー多消費型、環境汚染型の投資は大きく鈍化した。

第三に、エネルギー分野の投資拡大によりエネルギー生産、供給が拡大する一方、重工業分野の生産が鈍化したことで、エネルギーの需給逼迫は緩和しつつある。石炭は、国内需要や純輸出が鈍化したことで、在庫水準が上昇している。

第四に、2005年は都市、農村部ともに所得の伸びが高まったことで、消費ニーズも高まりつつある。投資主導から消費主導の成長へ、投資と消費のアンバランス解消への期待を抱かせる。

なお残る問題点：エネルギー効率の低下、社会的なソフト・インフラの不足

第一に、エネルギーの需給逼迫が緩和されつつあるものの、エネルギー効率は低い（GDP単位当たりエネルギー消費が大きい）。1996年以来、経済成長方式の転換が叫ばれ、一連の政策措置が講じられたものの、依然としてエネルギー多消費型の成長パターンから脱却できていない。

第二に、生産拡大型の投資が多く、社会インフラ整備型の投資が少ない。ここ数年の財政投資は基礎インフラ施設、環境保護関連、電力・石油・運輸などの投資が大幅に拡大したものの、教育や公共衛生などの投資は不足している。

第三に、政府の役割がはっきりしない。中央政府がマクロ調整策を講じる一方、地方政府レベルで投資が実行されていく。投資プロジェクトは中央政府、地方政府がともに承認するが、その選別過程には不透明さが残る。

2006年の展望：5ヵ年計画スタートの年、20%増の安定成長では

投資拡大要因として、まず、2006年は第11次5ヵ年計画がスタートすることが挙げられる。同計画では経済の安定的な成長が最優先であり、景気の乱高下につながるような経済運営は避けられるだろう。環境汚染型、ローテク型、供給過多の分野での投資は抑制されながら、投資プロジェクトの選別が行われる。また、金利が低く、低コストでの資金調達が可能であることなど金融環境は良好で、この方面からは旺盛な投資意欲が続くと見込まれる。

一方、マイナス要因としては、原油価格の高騰によるコスト上昇、利益低下によって投資意欲が削がれる可能性もある。固定資産投資の1/3を占める不動産投資も、鈍化傾向が続くとみられる。また、2005年もかなり高い水準の投資が行われたため、この水準からの大幅増は見込みにくい面もある。

以上を踏まえると、2006年の固定資産投資は前年比20%増程度と、2005年よりは伸び率は低下するものの、安定成長路線を維持すると考えられる。このうち都市部での投資は22%増、不動産投資は20.5%増と見込まれる。

#### 4．東北振興：遼寧省＝鉄鋼強省に向けた歩み

鉄鋼など金属工業は遼寧省のリーディング産業の一つであり、2005年は売上高が前年比15.8%増、利益は同11%増を確保した。技術革新や設備・製品構造の調整などにより競争力も向上しつつあり、遼寧省＝鉄鋼強省への道を着実に歩みつつあるといえる。

2005年の回顧：大型投資プロジェクト、鞍山・本溪鋼鉄の合併

2005年は、大型の投資プロジェクトが相次いで完成した。鞍山鋼鉄では高付加価値板材の生産プロジェクトとして、250万トンの転炉2基、鋼板連続鑄造機、連続熱間圧延機、3,200m<sup>3</sup>の高炉2基が完成し、鞍山鋼鉄第三冶金工場の珪素鋼板年産80万トンの冷間圧延プロジェクトも竣工した。本溪鋼鉄では薄板連続鑄造圧延プロジェクトとして、焼結機、2,850m<sup>3</sup>の高炉2基、180万トンの転炉、コークス炉、薄板連続鑄造圧延生産ラインや表面処理ラインが完成した。

また、東北特鋼集団では環境保護プロジェクトの電炉製鋼プラント水処理施設、営口中板工場では製鋼能力100万トンの増産投資、新撫順鋼鉄の50万トン増産に向けた450m<sup>3</sup>高炉改造投資、遼陽銅業集団の生産能力3万トンの高精度銅合金板材プロジェクトなどが相次いで完成した。

新たな投資の一方で、老朽化した設備の廃棄も進められている。鞍山鋼鉄では1,000m<sup>3</sup>以下の老朽化した高炉の廃棄が始まり、大規模な設備再編を通じて生産技術の改善、製品構造の高度化、生産コストの低減などが見込まれている。

2005年の遼寧省金属工業界での最大のトピックスは鞍山鋼鉄と本溪鋼鉄の合併（鞍本鋼鉄集団）だったが、他にも新撫順鋼鉄の再編がある。北京建龍鋼鉄集団公司、黒龍江宝泰隆公司が11億元を出資し、それぞれ新撫順鋼鉄の45%、25%の株式を握ることとなった（撫順市の出資比率は30%に）。また、撫順アルミニウム工場が中国業集団傘下に入り、原料コストの低減など競争力向上が期待されている。

発展への懸念材料：生産能力過剰問題、資源制約

こうした金属工業強化の動きが進展する一方で、鉄鋼の生産能力が過剰となり

価格が下落していることから、企業業績は急速に悪化している。国の「鉄鋼産業発展政策」に沿って、老朽化設備や生産能力を廃棄していくことは、経済運営にとってかなりリスクの高いものとなりつつある。金属工業の景況悪化は、鉄鋼を使う下流の業種にも悪影響を及ぼしかねない。また、全国的な粘結炭、コークスの不足、鉄道輸送の需給逼迫に加えて、水資源の制約などの問題も早期の解決は難しいのが実情である。

今後の方向性：内陸型から沿海方の立地へ、設備の新旧交代、高付加価値化

こうした資源制約を踏まえると、遼寧省の鉄鋼産業は内陸資源立地型から沿海立地型に、そのエリア配置を見直す時期を迎えている。鉱物資源、エネルギー、水、物流、環境、市場分布と海外資源の利用を考えた場合、内陸部での鉄鋼精錬能力の新增設は抑え、沿海経済型に持っていかなければならない。鞍本鋼鉄集団の沿海部進出を促し、营口などで世界先進レベルの大型鉄鋼プロジェクトを計画することが考えられる。

製品種類面では、鞍本鋼鉄集団や營口中板有限公司を中核として圧中板、熱延鋼板、冷延鋼板、表面処理合板など高付加価値板材を強化する。また、東北特鋼集団では建設関連鋼材や特殊鋼、新撫順鋼鉄などでは棒鋼線材や熱延H型鋼、鞍本鋼鉄集団の鉄鋼関連設備の研究開発と製造の強化を図る。鞍山、本溪、遼陽3市エリアを鋼材精密加工の集積地として強化していく。

製造設備のレベルアップを図る重点プロジェクトも推進する。設備の大型化、オートメーション化、多品種や高級品質に対応できるよう重点的な鉄鋼プロジェクトを推進する。老朽化設備の廃棄を前提に、世界先進レベルの大型高炉、転炉、関連設備の投資を行い、圧中板熱間圧延機、中薄板連続圧延鑄造機、万能圧延機、溶融亜鉛めっきライン、電器亜鉛めっきラインなどを揃える。